

夏休み経済教室 大阪教室 2 日目の記録

日時 2026 年 8 月 13 日 (木) 9 : 30 ~ 16 : 00

場所 大阪取引所 4 階 O S E ホール

参加者 関係者を含む合計 70 名

主な内容 : 主催者挨拶のあと、新井明の進行のもとで、以下の内容が展開された。

<1 コマ目> シン経済教育の提案

- ・篠原総一先生より、シン経済学習の基本的考え方が提示された。経済の定義を「私たちの暮らしを、みんなで支え合う、社会のしくみ」として、暮らしを支える 4 つの基盤 (A 市場経済基盤、B インフラ基盤、C 人間生活基盤、D 社会生活基盤) のつながりとして教えるという考えで、情報でいえば O S に相当する内容である。
- ・佐藤英司先生より、篠原提案をうけて「経済分野 10 講案」が紹介された。これは 4 つの基盤のつながりを 10 講にわけてプログラム化したもので、導入からはじまり、市場のしくみ、市場だけでは十分に扱えにくい課題を扱い、最後の 10 講で全体を統合するという構成のプログラムである。O S に基づいたプラットフォームとも言うべき内容である。
- ・新井より、篠原、佐藤提案をうけて授業案に落とし込んだ具体的な各講の授業案の紹介があった。中学版、高校版の構成の紹介と、サンプル原稿の紹介があった。O S ・プラットフォームを受けたアプリに相当するものである。

<2 コマ目> 提案を受けてのパネルディスカッション

- ・1 コマ目の提案をうけて、3 人の先生 (河原和之先生、金子幹夫先生、栗原久先生) と提案者の篠原先生、佐藤先生の 5 人での討論があった。河原先生からは中学校での実践から多様な導入事例やコンビニをテーマとした授業プランの紹介、金子先生は高校の実践経験から、第 1 講の授業事例の紹介、栗原先生は教科教育の立場から、篠原・佐藤提案の構成原理と問題点を指摘された。
- ・それをうけて、実感から理解へどのように接続させるか、事例をどこまで広げることができるのかの 2 点に討論内容を絞り、シン経済教育の提案をうけ 5 人の先生の討論が行われた。最後に、当日参加されていた前日の講演講師であった松島齊先生から、経済教育の転換の「歴史的瞬間」に立ち会ったとの感想があった。

<3 コマ目> 提案を受けての実践発表と質疑

- ・中学校では、市川慶太先生から、前年の夏休み経済教室での篠原提案に刺激されて実践を行った「中学生にとって役立つ経済学習」授業が紹介された。経済の本質とカリキュラムマネジメントとわくわくと実用性を掛け合わせた 14 時間の授業実践で、シン経済教育の可能性を開いた前哨戦ともいうべき実践であった。
- ・高等学校では、杉浦光紀先生から「社会のあり方を考える生徒を育成する経済学習」が紹介された。佐藤提案の第 2・3 講を踏まえた実践で、カレーの背景の探究、フリマの交換から貨幣の役割、新聞記事からのキーワードの読み取りという、生活実感から本質にせまる実践で、シン経済教育のこれからの実践可能性を提示したものであった。

<4 コマ目> 全員参加による「みんなで話そう」

- ・当日の参加者を 6 ~ 8 人のグループに分け、自己紹介、現場での実際、提案された内容を実践できるか、提案に対する要望を話し合った。当日は、中学 2 グループ、高校 3 グループでの話し合いとなった。
- ・各グループの司会役の先生から、グループでの内容の報告があり、全体で共有した。現場での実際では、AI 導入への抵抗や、教科書をなかなか離れられないなど、受験から生活指導まで多様な生徒の実態があることが報告されたが、シン経済教育のプランに関しては、全体をすぐに取り入れられないが、カスタマイズしながら、部分的にでも取り入れたいという肯定的な意見が紹介された。また、エコノミストからの支援を期待したいという声もあり、参加の先生方とのさらなる連携が課題として提起される討論であった。
- ・最後に、進行役の新井から簡単な総括があり、無事、盛会のうちに終了した。

補足 : 各報告者の所属は省略。プログラムを参照。資料を後日掲載予定。(記録と文責 : 新井)